

職場の課題の
経験交流を行った
討論会



第41回 労働リーダーシップ コース報告

'10年1月7~23日

2010年1月7日(木)～23日(土)、第41回労働リーダーシップコースを開催した。

労働リーダーシップコースは一般的な研修とは異なり、知識の習得だけではなく合宿生活の中で寝食を共にした「全人格的教育」を目的としている。

琴の演奏で始まった開校式では、平田校長が祝辞で「企業や産別の枠を越えて、よく学び、よく遊び、よき友を得て、自らを高めていただきたい」と述べた。

その言葉どおり、「縦：歴史的背景を学ぶ、点：自分の立っている場について学ぶ、横：自分の住む世界の広がりについて学ぶ、深：自分の生きる基礎について学ぶ」という4本の柱に基づくカリキュラムとして知識を学び、特別プログラムでは日本の伝統文化も体験し、合宿生活の中で仲間づくりに励み、ゼミナールでは労組・職場での課題についてディスカッションを重ねた。

1969年の開設以来、41年間、多くの労組リーダーが受講している。

今年も39名が受講し、修了生の累計は1382名となった。



交流会での阿波踊り



英会話



朝の散歩、体操



圓光寺での坐禅体験



ファンタジー・グループ



朝の散歩／砂防ダムにて

Leadership



開校式

年年歳歳花相似 歳歳年年人不同

北は福島県から南は熊本県まで。平均年齢38・2歳。総勢39名、うち女性1名。出身地も出身組合も違う人達が、偶然にも、2010年1月7日、大きな荷物を抱えてこれから2週間半生活を共にする関西セミナーハウスに集合しました。「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」。そのときに咲く花はだいたい似た花が咲いている、しかし、そこに集う、出会う人はかならずしも同じではないという意味です。初代校長の竹中先生が開校式の式辞でおっしゃっていた言葉です。開校式当日の、緊張してちよびり張り詰めた姿は毎年同じ様に見えますが、そこに集った

人々は毎年違います。2週間半のうち、各期で全く違った雰囲気が出来上がります。

この労働リーダーシップコースは、受講生が主体となって運営していくのが特徴です。各ゼミから2名選出する「実行委員会」、「ラジオ体操担当」、講義の時に司会進行を行う「座長」、討論会の進行役「討論会実行委員会」など、受講生が必ず何かの役割を担います。実行委員10名の中から1名、級長も選びます。この級長を中心に、事務局からのお仕着せではなく、主体的に物事を考えて運営していくことで、自分達で作り上げた第41回コースであるという意識が強く芽生えるようです。実際、受講生のアンケートでも「参加者意識が高まる」「持ち回りで役をつけることで、意識が高まり、充実した講義につながるがっている」との回答を得ています。

▼コースの1日

ここで、コースの1日を紹介いたします。まず、朝7時のラジオ体操から始まります。全員もれなく集合しているか否か班長が点呼をとります。(集合してはいけないことがわ

かると、即座に部屋に呼び出しがかかります)そしてラジオ体操担当による朝の挨拶、実行委員長からの連絡事項等と続きます。第41回では級長の発案で、ラジオ体操の前に毎日ゼミ持ち回りで「三言発言する機会を作りました。様々な人の「言葉」を聞くことができ、人となりを理解するのも早かったように感じます。ラジオ体操第1だけではなく時にはラジオ体操第2も行います。うる覚えのぎこちない動きの第2体操が終わると、ゼミナーハウス周辺を20分ほどかけて散歩します。朝早くからのラジオ体操に時々不満の声もあがりませんが、期間中ほとんど身体を動かす機会がないため、体重増加を防止するためにも、気分転換するためにも必要不可欠なものとなっております。毎年、雨や雪で室内でのラジオ体操という日も数日ありますが、今年には天候に恵まれ、毎日屋外でラジオ体操ができたためずいぶん良かったです。

散歩の後は、「英会話」です。先生は京都市内の大学に留学しているアメリカ人留学生ですから、専門の勉強をした専門家ではありません。この「英会話」は英語習得のためというより、留学生とコミュニケーションをとることにより英語に親しみを持つこと、そして留学生との文化交流を目的にしています。初めは緊張してよそよそしかった雰囲気も、全7回が終了するころには英語と日本語を取り混ぜながら楽しげに話をしている姿が見られるようになります。

朝食を挟んで、いよいよ午前中の講義です。基本的に午前1講義、午後1講義、時には夜にも講義があります。講義の司会進行は講義毎に決めた「座長」が行います。もちろん、講師と講義の進め方の打合せも行います。講義中は、最初の挨拶、講師の紹介、そして質疑応答時の司会も座長の仕事です。人前に立つて司会進行をするのはなかなか緊張するものだと思いますが、組合役員は人前で話すのに慣れてる人が多く、講義の最後に一言二言感想を述べる余裕のある人も多く見受けられます。午前の講義が終わると昼食です。2週間半という長丁場の中で楽しみなのが食事です。昼食と夕食を合わせると、20回以上食事の機会があ

りますが、メニューが重なったこと
がありませぬ。厨房の方々の努力
には頭が下がります。

昼食の後は午後の講義まで休憩。
この休憩時間を使って、周辺のお寺
を見学したり、時にはゼミナールの
まよめの作業をする受講生もいま
す。午後の講義30分前になると、実
行委員会が始まります。この実行委
員会では、例えば2週目に行う「交
流会」の進め方や、受講生からの意
見要望について検討するなど、運営
に関するほとんどのことを決定し、
必要があれば事務局に要望を出した
りします。コース運営の要とも言
えます。



お茶室体験 (富山ゼミ)

その後は、午後の講義、夕食、時
には夜の講義と1日が過ぎていきま
す。1日のプログラムがすべて終
わつた後は、自由時間です。ラウン
ジでは飲み物を持ち寄って情報交換
を行ったり、3週目に入るとゼミ毎
に集まりゼミナールのまよめの作業

を行う姿が見受けられます。合宿
ならではの光景です。

▼充実した特別プログラム

労働リーダーシップコースは講
義だけではなく、特別プログラム
も特徴のひとつです。1日の流れで
紹介した「英会話」の他に、討論会
実行委員会が決めた複数のテーマ
の中から自分が興味のあるテーマ
のテーブルに赴き結論を出すこと
などにとらわれず自由に討論し合
う「討論会」、職場や組合での課題
を議論する「ゼミナール」、まだ夜
も明けきらない早朝禅寺へ出かけ
行う「坐禅体験」、何も話をせずに
指を使って、グループで自由に二つ

▼未来(あす)への誓い

2週間半が終わる最終日、受講
生は皆、様々な言葉を残してゼミ
ナーハウスを去ります。第41回期
生は、「未来(あす)への誓い」とい

第41回 労働リーダーシップコース 個人レポートテーマ

1月22日、本コースの集大成である「ゼ
ミナールまよめ」でゼミ毎に個人レポ
ートの発表、そして全体で各ゼミのまよめ
の発表を行った。コース期間中、計4回
にわたり職場・組合での課題を討議し
合った成果である個人レポートのテーマ
は以下のとおり。

★平田ゼミ「労働組合と人間」(8名) テーマ「職業と人生の意味を考える」

指導講師：平田哲・労働リーダーシップ
コース校長 (NPOアジアボランティ
ア センター代表)

「職業と人生の意味を考える」(塗師尾充・
トヨタ車体労組執行委員)、「今後の組合
活における課題解決に向けて」(野口進・
全本田労連中央執行委員)、「生きがい、
働きがいと労働組合の取り組み」(富田悟
史・マツダ労組第8組織部長)、「職業と
人生の意味を考える」(吉岡圭・富士重
工労組常任執行委員)、「労働組合と人間
と職業と人生の意味を考える」(小島克
元・パナソニックAVCネットワークス
労組ネットワーク支部福島地区書記長)、「
社会貢献活動と労働組合」(村林正樹・
富士通セネラル労組中央執行委員)、「労
働組合の政治団体設立に対して組合員の
理解」(赤松浩・神戸製鋼所労組神戸支部
執行委員)、「職業と人生の意味を考える」
(田邊新庫・全労済大阪府本部係長)



閉校式で答辞を述べる河野級長

★香川ゼミ「労働組合と世界」(7名)

テーマ「21世紀国際社会における労働組合の役割」

指導講師：香川孝三・労働リーダーシップコース副校長（大阪女学院大学副学長）
 「海外生産・海外事業展開における労働組合のあり方」（徳永英人・本田技研労組浜松支部書記次長）、「海外駐在者の処遇問題（組合とのコミュニケーション向上）」について（山口俊明・ダイハツ労組組織教育局部長）、「海外事業所における労使紛争に対して、日本（本社）の労組としてどう対応するか」（藁科健一・ヤマハ発動機労組中央執行委員）、「真のグローバルカンパニーを目指すにあたって」（若脇寛己・パナソニック電工労組中央執行委員）、「国際労使紛争」（三田晃司・三洋電機労組大東事業所支部書記長）、「労働組合と世界」21世紀国際社会における労働組合の役割（松中春樹・コマツユニオン本社営業支部副執行委員長）、「海外生産拠点を持つ労働組合のあり方」（阿曾正之・三菱電線工業労組箕島支部執行委員）

★石田ゼミ「労働組合と職場」(8名)

テーマ「労働組合機能の再発見とフロンティアの展望」

指導講師：石田光男・労働リーダーシップコース運営委員（同志社大学教授）
 「現在の本田労組熊本支部の課題から見る、役員としての反省と課題」（今村賢治・本田技研労組熊本支部書記次長）、「労働

組合機能の再発見とフロンティアの展望」（原田悟・マツダ労組第6組織部長）、「労使関係から考える労働組合の役割」とは（河野勝巳・パナソニックAVCネットワークス労組直轄支部委員長）、「これからの組合活動について」（小川道久・パナソニックホームアプライアンス労組八日市支部書記長）、「労使における『労働時間の短縮』という意義のあり方について」（平尾正寛・パナソニック電

工労組東部総合支部書記長）、「会社施策に対する労働組合の関わり方」（野川正明・三菱重工労組横製支部教広部長）、「労働組合と職場」（忍田功・古河グループ労連日光地区支部副書記長）、「労働組合の経営対策活動の強化について」（中村剛典・全労済中日本事業本部係長）

★中田ゼミ「労働組合と社会」(8名)

テーマ「仕事と処遇と納得性のある給与の決め方と水準」

指導講師：中田喜文・労働リーダーシップコース運営委員（同志社大学教授）
 「自社の賃金体系について」（君島裕之・全本田労連中央執行委員）、「山口マツダにおける賃金の特徴/課題/改善方法」（戸村伸一郎・全国マツダ労連事務局次長）、「パナソニックの賃金体系とその課題」（井上昭男・パナソニック本社総合労組CISC支部書記長）、「パナソニック電工における賃金の特徴と課題について」（田島照敏・パナソニック電工労組本社総合支部書記長）、「自組織におけるべき賃金体系と水準を考え

る」（小出圭介・パナホーム労組中央執行委員）、「三洋電機の賃金体系」（澤田茂・三洋電機労組コーポレート支部書記長）、「人事・賃金制度の課題と方策について」（川田和広・JFEスチール千葉労組執行委員）、「JFEスチールの賃金制度について」製造現場における月例給与および賞与の水準とは」（平野浩明・JFEスチール倉敷労組執行委員）

★富田ゼミ「労働組合と働き方」(8名)

テーマ「ワーク・ライフ・バランス」

指導講師：富田安信・労働リーダーシップコース運営委員（同志社大学教授）
 「ワーク・ライフ・バランス」（前中精二・日産労連労組活動推進局神奈川ブロック副ブロック長）、「ワーク・ライフ・バランス」（杉野達也・本田技研労組鈴鹿支部書記次長）、「ワーク・ライフ・バランス」（砂本洋二・富士シート労組執行委員）、「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」（澤田順一・パナソニックAVCネットワークス労組システム支部書記長）、「ワーク・ライフ・バランス」（下宮有理・パナソニック電工労組中央執行委員）、「ワーク・ライフ・バランス（WLBB）」（鈴木智秀・三洋電機労組東京製作所支部副委員長）、「ワーク・ライフ・バランスについて」（渡辺雅也・コマツユニオン大阪支部書記長）、「ワーク・ライフ・バランス」（片岡健太郎・三菱重工労組広島支部組織部長）

う決意表明を残していきました。「これからも多くの課題があると思いますが、前に進む心を持ち続けて歩んでいくことを自らに課し、時に辛くとも今回の出会いを心の支えにして頑張つていきます。」「人との出逢いを活かし、働く人が明日も元気に働きたいと思えるよう、リーダーシップを発揮したいと思えます。」「広い視野、考え方をもつ組合役員になるよう努力します。」などなど、ここでは紹介しきれないほどたくさんの方が詰まっていた。これから修了生の皆さんがそれぞれの組合で活躍されることを祈りつつ、次回どのような方々が参加されるか今から楽しみです。



閉会式後の記念撮影

ゼミナール担当講師のコメント 1



平田ゼミ

金属労協は、1964年5月に国際金属労連日本協議会（IMFJC）として結成されたが、いち早く組合リーダー教育を着目、結成3年後から長期の労働リーダーシップコースを継続して今日まで毎年開催していることは誠に意義深いものがある。3週間近く、寝食を共にして、セミナーを開いている労働組合は世界でも稀である。40名近い労働組合リーダーが共同生活をしながら、仲間意識を深め、幅広い知識と問題意識を深め、未だかつて経験したことのない交流が緊密



労働リーダーシップコース校長／アジアボランティアセンター代表

平田 哲（ひらた・さとし）

に継続して行われている。今回も校長として務めつつ、ゼミでは「職業と人生」の意味についてみんなで興味のある本を通してながら考えた。みんなが主役となつて、労働運動の原点である「自己の人間性の回復」について考えた。

私自身が関西セミナーハウスでの労働リーダーシップコースに関わるようになったのは、今から40年ほど前のことである。大阪の中小企業の密集している十三で、未組織労働者のために、労働学校を毎年3週間くらい開いていた。当時、私は「労働牧師」と云われていた。日立造船で働きながら、労働者の生活状況全体を少しでも良くしようとして試みた。青白い大学生が油と埃にまみれて、労働者の生き様を少しでも体験しようとして飛び込んでいったのである。関西学院大学と同志社大学の神学部が協力して、関西労働者伝道委員会を組織し、そのインターン生の第1回に応募して得難い経験をさせてもらった。その結果、今日の労働リーダーシップコースの礎に貢献することができたのである。

日本の企業がアジアに進出している中でアジアボランティアセンターを新たに組織して、アジアの労働者がより人間らしい生活が確保できるように働きかけている。

これからもIMFJCの労働リーダーシップコースが益々充実強化され本来の目的が果たされるよう願っております。

受講生代表コメント

平田ゼミ・副班長／トヨタ車体労組執行委員
塗師尾 充 としお・みつる



仲間との出会いは有形無形の財産

第41回労働リーダーシップコースに参加して早くも半年が過ぎました。

開校式当日を振り返ると正月の連休が明けて間もない1月7日、全く知らない仲間と長期間に渡り寝食を共にし、研修を受ける事への一抹の不安と緊張感を覚えながら雪の降る京都の地に赴きましたが「大事な時期に持ち場を離れ、産別を越えた仲間と講義を受け、夜遅くまで議論し、寝る間を惜しんで課題テーマをまとめる。職場に戻ると山のようなメールと仕事がかさねる。…人生の中でこんな経験できる事は幸せ。自然に恵まれたこの比叡山の麓で出会った仲間と時間を共有しお互いに影響を受けて…閉校式では別れが辛くて泣けるくらいに…」と講師、事務局の皆様のお話の通り、38名の仲間との出会いは自分にとって有形無形の財産となり、また多分野に渡る講義やデスカッションは自助力を養う良い機会となりました。

また、平田ゼミでは「職業と人生の意味を考える」をテーマに平田先生の指導のもと、ゼミのメンバー7人と共に壁にぶつかりながら、ひとりひとりの価値観や人生観、職業観、組合観を尊重し、夜遅くまで真摯!?に議論を重ねる中で、日々の繁忙感で損なわれた人間性の回復が必要だとお互いに気付いた事が大きな成果だと感じています。

最後に平田校長をはじめ講師の先生方、事務局の皆さん、関西セミナーハウスの皆さんそして41期受講生の仲間たちに心から感謝すると共に、今後も仲間とよく学び、話し、笑い、歩く!?セミナーとして益々発展される事を念じつつ筆を置きます。ありがとうございました。

平田ゼミ・班長／富士重工労組常任執行委員
吉岡 圭一 よしおか・けいいち



人生の種として役立てたい

日常の業務を離れ、京都の自然豊かで静かな環境の中、産別を越えた仲間・講師の先生・JC事務局・セミナーハウスの方々と知り合えた労働リーダーシップ研修から早半年。私は研修が終わり、現実の社会（職場）に慣れるまでしばらく時間が掛かりました。今振り返ると3週間の出来事は、私にとって大変充実した影響力のあるものでした。

私が属した平田ゼミは、『労働組合と人間』をテーマに、産別を越えた個性豊かな、超～まじめなメンバーの集団で！毎晩遅くまで議論をしました。その一方で交流会では日頃のストレスを発散するかとく、一致団結して披露した仮装芸は今でも忘れられません。

また、平田校長をはじめ、大学教授の方々から受けた講義は、今まで考えたことも無かったような話や、世界・社会・産業の専門分野のお話を受講することが出来た本当に良かったです。

教養を高め、自然を体感し、人間関係を玉成するこのような研修に参加出来たことはこれからの組合活動だけではなく、人生の種として役立てたいと思います。最後に平田ゼミのトシさん・オジ・ムラッチ・トミさん・マッチョ・グッサン・ナベッチ 再会を楽しみにしています。そして、この研修にご尽力いただいた皆様のご健勝を祈念いたします。

香川ゼミ

ゼミナール担当講師のコメント 2



労働リーダーシップコース副校長／
大阪女学院大学副学長

香川 孝三 (かがわ・こうぞう)

香川ゼミでは、海外とかわる労働組合の活動をめぐる諸問題の中から、3つのテーマをゼミ生に選択してもらって、全員で議論しつつ、レポートにまとめ、それを発表してもらった。

今回は初めて、海外に進出した先での労使紛争をとりあげた。最近日系企業で労使紛争が多発している。企業側の立場からすれば、労使紛争が報道されることを嫌う傾向にあるが、それでも労使紛争が報道されるのは、問題が深刻化して、こじれて解決が難しくなってきたからである。そこになが原因で紛争が生じているのか、紛争が長引く場合、どうして長引くのか、早期の解決がなぜできなかったのか、日本側の経営側の対策に問題はなかったのか、日本側の労働組合はどう対応すべきなのか、ということが議論されてきた。

特に、日本側の労働組合は現地の労働組合と日常的に接触していない場合が多く、どう対応したらいいのかわからず、企業側と同調してしまう場合もありうる。連合やIMFJICが調停に乗りだして解決にいたる場合もある。それでも解決にいたらない場合もある。もし日常の活動として現地の労働組合との接触があれば、労働組合として解決に貢献できる可能性が高くなるのではないか。

日本の労働組合はそのような視点で国際的な活動をすればいいのかわからないか。ゼミ生と議論しながら、そんなことを考えていた。企業の海外進出は継続していくかぎり、この問題が続いていく、次回以降もこの問題を探っていきたいと思っている。



香川ゼミ

受講生代表コメント

香川ゼミ・副班長／
本田技研労働組松支部書記次長
徳永 英人 とくなが・ひでと



業種を超えた多くの仲間との出会い

今回「第41回労働リーダーシップコース」に参加が決まったとき、このチャンスを活かして少しでも多くのことを吸収しようと決意をしたことを覚えています。

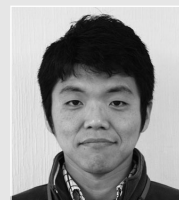
今回、香川ゼミということで国際運動論を学ばせていただきましたが、いままでの自分の視野の狭さに気付かされ、新たな知識を吸収することができ、学ぶ楽しさを感じることが出来ました。そこには香川先生の人柄も大きく寄与しており、ゼミでの一体感につながったと考えています。

また知識・感性以外の財産として、業種を越えた多くの仲間との出会いがあります。それはこの研修に参加した全員が感じていることだと思いますが、私のもう一つの目標が、研修期間中にゼミの参加者全員とコミュニケーションを取ることでした。結果は早い段階で達成することができ(一部迷惑に感じている方もいるかもしれませんが…)、その中でも特に香川ゼミの仲間とは毎晩(強制的?)語り明かし年齢・組織関係なく、様々なことを相談できる貴重な仲間となりました。

今現在、今回学んだ知識や仲間とのつながりが活動に反映できているかどうかは自分自身まだ分かりませんが、この研修が自分の財産になったことは間違いなく少しでも早く、組合活動に反映できるよう取り組んでいきます。

最後にこの研修に携わった、事務局を始め、講師・セミナーハウスの職員の皆様、本当にありがとうございました。

香川ゼミ・班長／
パナソニック電工労働組中央執行委員
岩脇 寛己 いわわき・ひろき



出会えて良かった！

第41回労働リーダーシップコースを受講し、私も多くの方が感じている様に、新しい仲間、様々な考え方などに触れ合うことができ、本当に有意義な時間を過ごすことができました。とくにゼミにおいて、多くの時間を、仲間とともに過ごすことができ、時には熱くなりながらも、それぞれの立場から意見を出し合い、話し合うことで、いままで持ち合わせていなかった経験・知識に出会うことができ、素晴らしい時間であったと感じています。一言で表現すると、「出会えて良かった！」という気持ちです。

話しは変わりますが、先日、大阪周辺の一部のメンバーで同窓会をしました。モチベーションが上がるいい会でしたよ！リーダーシップコースに参加したから得た財産ですね。感謝しています。

労働組合の活動は、「組合員のライフデザインの一部を担うもの」でもあり、責任の大きいものですが、いままで蓄積されてきた活動を基盤としながらも、環境の変化に対応することができるフレキシブルな思考をもとに、全ての人が成長できる活動になるよう取り組んでいきたいと思っています。

事務局のみなさま本当にありがとうございました！

ゼミナール担当講師のコメント 3



労働リーダーシップコース運営委員
／同志社大学社会学部教授
石田 光男 (いしだ・みつお)

私のゼミでは例年「労働組合と職場」をテーマとしているため、経済社会の変化が職場にどのように表現されているのかがよくわかる。今年の議論は各社、リーマン・ショック以降の地殻変動に対して、生産調整だけでなく、経営組織そのものの改革を通じて固定費の抜本的削減と短期間での収益確保の方策が経営側から打ち出され、それを受けて労働組合はいかに対応すべきかが中心的論点となった。

経営が求める改革は、組織再編あるいは組織構造改革というべき抜本的改革であるために、組合員の勤務地の異動等が大量に提案され労働組合はその処理に追われている。そういう職場状況が参加者から報告された。参加者の議論は、いかに厳しくとも、これまでに長期にわたって築いてきた労使の協力や助け合いの精神を組合と経営はしっかりと確認すること、それは単に労使トップだけでなく、個別の職場や個人に落とし込んで、その具体的意



石田ゼミ

味と意義を発掘していくことが大切な活動になるというものであった。

まことに平凡な結論であるが、この平凡さが非凡なのだ。雇用の不安に対して、経営対策の強化へ、そのフォローへの注力へ、経営対策が職場組合員の納得やモチベーションの維持を組み込んだものであるかの細心の注意、こういうベクトルが日本の労使関係に強く働くというのが日本の持つ非凡さなのだ。この「平凡の非凡」がどこまでグローバル競争に耐えうるかは私にもよく分からないし、誰にも分からない。分らないなかで、どうしてもそうなる、というのがその国柄であり本物のだ。そのことを大切にしたいと思う。

私の勉強機の前には参加者から送られた大きな卓球のラケットが鎮座している。元気で明るい仲間の笑顔がその中央に映し出されている。

受講生代表コメント

石田ゼミ・副班長/
パナソニック電工労働組合
東部総合支部書記長
平尾 正寛 ひらお・まさひろ



自然に囲まれ “Retreat”

普通6ヶ月も経ってしまうと、大半のことは忘れてしまうものなのですが、この2週間半の経験だけは、今でも昨日のことのように思い出す印象深い出来事の連続でした。

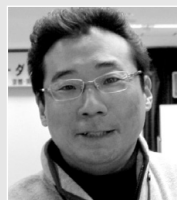
まず、オリエンテーション後の「グループ分け」と「貿易ゲーム」でインパクト“大”の級長(我が班長)と出逢い、個人の意志など関係もなく副班長へ。毎晩のように“議論”と称してはお酒の世界へと誘われ、毎朝、夢見心地で寒空の下を散歩したものです。

講義については、社会人になってしまった今となっては、ほとんど拝聴することの出来ない内容ばかりで、時折、3Dの世界へ飛び立つこともありましたが、興味深く勉強をさせて頂きました。(あの時、必死で舐めていた飴玉の味は一生忘れません！)

石田ゼミにおいては、「労働組合と職場」というテーマについて「職場における労働組合の役割」について真剣に議論をすすめました。産別を越えて集った仲間が真剣に自社のことについて語る風景は、今まで産別内で議論していた風景とは大きく異なり、非常に刺激を受け、「自分の職場に戻ったときに活動のヒントとなるものを何か1つでも見つけて帰りたい!」、そのような想いで議論に参画していたことを思い出します。

このリーダーシップコースで得た経験は基より、出逢うことの出来た仲間との貴重な時間を糧に日々精進して参りたいと思います。次年度以降も活きの良い方々が“Retreat”しに集ってくることを心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます! 本当にありがとうございました。

級長/石田ゼミ・班長/
パナソニックAVCネットワークス
労組直轄支部委員長
河野 勝巳 かわの・かつみ



「人との出会い、語らい」が人生を変えることも…

このコースは、「時代の求める労働組合の役割」というテーマに基づく貴重な講義と、世界さらには宇宙という観点での多岐にわたるプログラム構成および、非常に個性的な講師の方々との出会いは、今まで経験したことがないほどの充実した学びと数多くの気づきがありました。

また、交流会の余興やゼミナール活動では、夜遅くまで仲間と真剣な議論で、友情と連帯の絆、強固な結束力によるチームワークが生まれました。

私の体験からも、その時々の人との出会い、語らいが自らの考え方や意識を変える力を持っており、その後の生き方や人生に大きな影響を受けたことがありました。

私もこの期間中、多くの仲間と出来るだけ出会い、語らいの場を持ち、『人の生き方や人生に影響を与える男』になりたいという気持ちを持って参加しました。そういう意味では、この第41回労働リーダーシップコースを受講した我々39名の受講生とは、一緒に学び、遊び、語らい、笑い、泣き、良い意味でも悪い意味でも少しは影響を与えることが出来たのであればと思っています。逆に、私自身もいろんな人からいろいろなことを吸収させて頂きました。その学びを今後の組合活動にそして人生に役立てていきたいと思っています。

最終日には、朝の所感で申し上げた言葉をもう一度仲間を送りたいと思います。あなたは、一流のリーダーとはどのような人のことだと思いますか?

三流のリーダーは、次世代に『金』を残す。

二流のリーダーは、次世代に『事業』を残す。

一流のリーダーは、次世代に『人』を残す。

常に、一流のリーダーを目指して努力していく自分であり続けたい。

この気持ちを忘れず、新しき労働組合活動の創造に向けて、共に頑張りましょう。

中田ゼミ

ゼミナール担当講師のコメント4



労働リーダーシップコース運営委員/
同志社大学大学院教授

中田 喜文 (なかと・よしふみ)

えをまとめる。

これらの3つの目的に向け、5回のゼミでは、A.各自が所属する組織の賃金制度と水準について理解する。B.他の参加組織の賃金制度と水準を調査し、自組織との差異とその理由を検討する。C.個別ゼミメンバーの報告を全員で総括し、JC参加の大手企業における賃金の決まり方とそのロジック、およびそれぞれのステークホルダーにとつてのそのメリット、デメリットを明らかにする。D.最後にそのまゝに基つき、自組織の賃金制度と水準、および背景にあるロジックを評価し、自組織にとつて望ましい賃金制度と水準、およびそのロジックを提言案にまとめ、と言う以上の4つの課題に取り組んだ。

私たちのゼミは、「仕事と処遇」納得性のある給与の決め方と水準」をテーマに、ゼミ討議を行ったが、今年も例年どおり、参加者全員猛烈に毎回課題に取り組み、よく頑張ってくれた。とりわけ、8名のゼミ生が1つの課題に向けて、学びの時間を共有し、助け合い、取り組む姿に感銘させられた。

今年も中田ゼミ活動は、これまでの中田ゼミの伝統を踏襲し、以下の3点に設定した。

(1) 給与の多様な意味を理解することを通して、組合活動に対する多様なステークホルダーの存在を理解する。(組合活動の社会的理解)

(2) 日本の給与の決まり方と水準の実態を知ること、その背景にある普遍性のあるロジックを理解する。(給与の社会的理解)

(3) そのような実態とロジックの納得性を評価することを通して、今後の組合の賃金政策のあるべき姿について考

毎日様々な授業に出席し、さらには早朝と夜にも様々なプログラムをこなしながらの「過酷」なゼミ活動にも関わらず、初期の目的を全員が見事に達成してゼミ活動を終了した。ゼミ生の熱意と努力に感銘を受けた本年のゼミ活動であった。

中田ゼミ



受講生代表コメント

中田ゼミ・副班長/
三洋電機労組コーポレート支部書記長
澤田 茂 さわだ・しげる



仲間と出会い、またその出会いから多くのことを学んだ

労働リーダーシップコースが終了して、はや半年が経とうとしている。約2週間に渡る期間、毎日早朝から深夜まで学びながら、39名の仲間とともに寝食を共にしたことは、私にとって予想以上に大きな経験となった。今でも、つい最近のことであったかのように思い起こされる。カリキュラムは多岐に渡る内容であり、さらに講師陣はその分野の第一線の方が担当されていたこともあり、たいへん充実したものであった。41回目という歴史と共に、参加者全員がいかに期待されているのかということを感じた。

また、コースに参加するなかで特に感じたことは、「出会い」の大切さであった。受講前は「講義や研修でしっかり学ぼう」という意識であり、講義で得られるものも大きかったが、人との出会いのなかで得たものもたいへん大きかったと感じた。講義の内容やゼミのこと、出身組織やプライベートなど昼夜問わず話あうことで仲が深まったし、毎日寝不足ではあったが学ぶべき部分が数多くあった。

第41期の仲間や、研修のスムーズ運営に尽力いただいたIMF-JC事務局や関西セミナーハウスのスタッフ、講師陣の皆さま方には心より感謝するとともに、今後もこの出会いを大切にしたい。

中田ゼミ・班長/
パナソニック本社総合労組CISC支部書記長
井上 昭男 いのうえ・あきお



産別を越えた仲間との出会い

早いもので、労働リーダーシップコースを受講してから半年が経ちましたが、この2週間半のことを今でも鮮明に記憶しています。

講義では、日々の活動の中では意識することの少ない日本の労働運動の歴史や世界の労働事情に触れることができ、ゼミナールでは、普段知ることのない他社の人事処遇制度、賃金体系について議論することができました。この研修は、自らの視野を広げ、視点を高める非常に良い機会になりました。

また、研修の間、講義やゼミナールで真剣に議論しましたし、交流会では真剣に遊びました。茶室体験や座禅体験、鞍馬山散策も普段は体験できない、貴重な機会となりました。この貴重な機会を共有し、共に語り、寝食を共にした仲間は、他には代え難い存在となりました。産別を越えて、このような仲間ができたことは非常に大きな財産となりました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただいた、IMF-JC、関西セミナーハウスの皆様、講師の方々に御礼を申し上げます。

また、2週間半の間、研修に専念できる環境をいただいた支部のみなさんにも感謝します。ありがとうございました。

ゼミナール担当講師のコメント 5



労働リーダーシップコース運営委員
／同志社大学社会学部教授

富田 安信(とみた・やすのぶ)



富田ゼミ

「労働組合と働き方」ゼミを担当して2年になります。進め方はゼミ生に任せているのですが、今年も「ワーク・ライフ・バランス」とは何か、なぜ必要かという議論にかなり時間を割きました。コース終了後、ゼミ生も私も、有給休暇の取得率向上、残業時間の削減、仕事と育児の両立など具体的な課題に、それぞれの労働組合がどのように取り組んでいるのかの情報交換をもっとできたらよかったです。などという気持ちはありました。ただ、「ワーク・ライフ・バランス」とは何か、なぜ必要かについて納得して初めて、具体的な課題について議論できるというゼミ生の思いもわかりました。

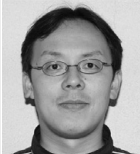
主張がしきりになされているのが気になります。わざわざ企業業績がアップすると言わなくても、労使が知恵を出し合って「ワーク・ライフ・バランス」に取り組むことで、従業員の「働きがい」と「働きやすさ」がアップすればいいのではないかと、そんな思いがしてなりません。

コース終了後、ゼミ生が近況をメールで知らせてくれましたが、みなさん、職場に帰ると組合活動等で忙しく、あれほど議論した「ワーク・ライフ・バランス」を成果はまだ出ていないようです。ゼミ生から要望もあったので、来年のゼミでは「組合リーダーのワーク・ライフ・バランス」を議論する日を一日設けます。

受講生代表コメント

富田ゼミ・班長／
パナソニックAVC ネットワークス労組システム支部書記長
澤田 順一 さわだ・じゅんいち

多くの仲間と、 至高の時間を共有



第41回労働リーダーシップコースが終了して、半年が経過しました。比叡山の麓にある「関西セミナーハウス」での約1ヶ月間弱の研修は、今思えばあっという間の出来事でした。多くの仲間と経験豊富な先生方との濃密な時間は私自身にとって何物にも変えがたい大切な経験となっています。

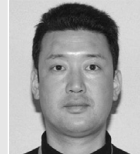
今回、私は富田先生の指導のもと、ワーク・ライフ・バランスについてゼミの仲間と議論を重ねました。近年非常に注目されているテーマではありますが、個人によって「ワーク・ライフ・バランスのあるべき姿」が違うということに驚きと感動を持った事を今でも忘れられません。それゆえに議論は白熱しましたが、徹底して意見を交じわすことで、お互いの理解を深め、多くの気づきを得ることができたと確信します。

真冬の京都で過ごした「関西セミナーハウス」での3週間は、多くの仲間と熱く深く語りあえた至高の時間でした。これからもこの経験を励みに、頑張っていきたいと考えます。

最後になりますが、IMF-JC 労働リーダーコースを支えていただいた講師の先生方、JC事務局の皆さま、関西セミナーハウスの職員の方々に感謝とお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

富田ゼミ・副班長／
三菱重工労組広島支部組織部長
片岡健太郎 かたおか・けんたろう

初日の夜には 一つのチームに



1月7日～23日にかけて開催されたIMF-JC 第41回労働リーダーシップコースに参加させていただきました。まだ正月ボケも抜けきらない1月7日の早朝に、2週間以上に及ぶ長い合宿期間と、事前にいただいたレベルの高い講義テキストに不安に駆られながら広島を立ちました。

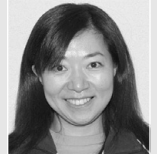
しかしそのような不安を持っていたら参加者たちも、初日の夜には一つのチームになることができる組合役員のリーダーシップはさすがであった。

今回の研修では「ワーク・ライフ・バランス」について富田先生に指導をいただき8名のメンバーで時間を忘れて議論をし、他の組合の現状・課題などを聞くことが出来ました。ゼミのメンバーで考えた「希望と現実の差を埋めることで満足度を上げ、バランスがとれる!」を定義としてワーク・ライフ・バランスの実現に向け取り組んでいこうとしたことを、今回の感想文の依頼で改めて思い返しました。

参加する前は、非常に長い研修会であり積極的な気持ちでの参加ではなかったのですが、研修も非常に濃い内容であり、それ以上に39名の参加者と寝食を共にすることで、人と人の繋がりができ多くのことを学ぶことができたことは、私の今後の人生において貴重な財産となりました。

富田ゼミ／
パナソニック電工労組中央執行委員
下宮 有理 しもみや・ゆり

女性も是非参加してください



JCセミナーは、当労組の専従役員に登門のようなセミナーで、諸先輩たちが受講しており、皆から「仲間ができる」「よい経験になる」と大絶賛の中送りだされました。

とはいえ、名簿を見ると女性らしき名前は私一人…。少々不安と緊張、そして素晴らしいセミナーだといふという期待を胸に小雪舞う関西セミナーハウスに到着したことを懐かしく思います。

実際セミナーでは、労働組合に関する話から、世界のこと、宇宙のことなど、本当に幅広い知識を得ることができました。労働組合役員として、また人間として成長のできる貴重な講義の数々でした。また、ゼミでは、仲間と一つのことを徹底的に話し合うということもできました。少々時間切れになってしまった感がありますが、スピード社会の昨今、あれだけ熱心に時間を掛けて話すことができたのは、貴重な経験であったと感じています。

また、様々な業種、経験を持つ仲間と出会えたことも、喜びの一つです。同じ労働組合とはいえ、業種が異なれば活動も様々です。そのようなことを体感できたこともよい経験でした。このような業種を超えた仲間作りのできるセミナーは大変素晴らしいセミナーだと思います。たくさんの方が参加し(女性も是非参加してください!)、末永くセミナーが続くことをお祈りいたします。